



令和 7（2025）年度 病害虫発生予察注意報 第 1 号

令和 7（2025）年 5 月 20 日

栃木県農業総合研究センター

環境技術指導部

作物名：小麦、六条大麦

病害虫名：赤かび病

1 発生予想 発生量 多い

2 発生地域 県内全域

3 注意報発表の根拠

- (1) 5月中旬の小麦・六条大麦の赤かび病発生ほ場率は、87.0%（平年値 42.6%）、発生穂率は、2.5%（平年値 1.0%）で、いずれも過去5年間では2番目に高かった（図）。
- (2) 麦種別の発生ほ場率は、小麦（80.0%）、六条大麦（100%）であった。
- (3) 宇都宮市における5月1日～19日の赤かび病の子のう胞子が飛散しやすい好適日*は15日間で、赤かび病が多発した昨年（11日間）より多かった（表1）。
- (4) 気象庁の1か月予報（5月15日発表）は気温が高く降水量が多いとされており、今後さらに発生の増加が懸念される。

*赤かび病の子のう胞子飛散好適日：日最高気温15℃以上、日最低気温が10℃以上で、湿度80%以上かつ降雨直後の日。

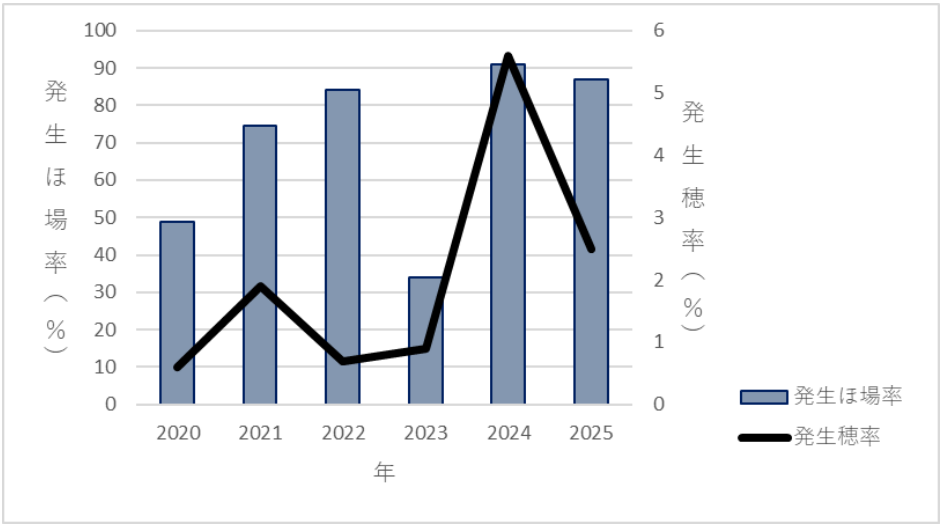


図 小麦・六条大麦の赤かび病発生ほ場率及び穂率（5月中旬）

表 1 赤かび病の子のう胞子飛散好適日

5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
令和 6（2024）年	○	○				○	○					○	○	○	○	○	○		○	11日
令和 7（2025）年		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	15日

○：赤かび病の子のう胞子飛散好適日

4 防除対策

赤かび病の病原菌は、人や家畜に有害なかび毒（デオキシニバレノール（DON）、ニバレノール（NIV）等）を産生するため、赤かび粒の混入した麦は販売できない。このため、早急に防除を行う必要がある。

- （１）薬剤を散布する際は、収穫前日数及び使用回数に留意する。特に、収穫期が迫っている場合は注意する。
- （２）薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- （３）散布直後の降雨は防除効果が低下するため、降雨予想に留意し散布する。
- （４）収穫の遅れは、かび毒の産生を助長する原因となるため、適期収穫を基本とする。緊急的に高水分で収穫した場合は、速やかに乾燥機へ張り込み、通常より低めの温度から乾燥を開始する。
- （５）収穫時は赤かび病被害粒の混入防止に努め、立毛中に発生が確認された麦は刈り分けし、共乾施設等へ搬入する前に赤かび病被害粒の混入が無いことをよく確認する。

表２ 小麦または麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（令和 7（2025）年 5 月 14 日現在）

農薬名	作物名	希釈 倍数	使用 方法	使用時期／ 本剤の使用回数	薬剤 系統 名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	小麦	2000倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 2 回以内	DMI 剤	3
ワークアップフロアブル	麦類	2000～ 3000倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 3 回以内		
チルト乳剤 2.5	小麦	1000～ 2000倍	散布	収穫 3 日前まで ／ 3 回以内		
ミラビスフロアブル	小麦	1500～ 2000倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 2 回以内	SDHI 剤	7
トップジンMゾル	小麦	8 倍	無人航空機 による散布	収穫14日前まで ／出穂期以降は 2 回以内	MBC	1

※詳細は、「栃木県農作物等病害虫雑草防除指針」を参照。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tochigi>



写真１ 小麦の発病状況



写真２ 六条大麦の発病状況

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます

